

大飯発電所3号機の出力降下に関する調査状況について
(循環水管ベント弁付近からの海水漏れ)

2021年8月5日
関西電力株式会社

大飯発電所3号機(加圧水型軽水炉 定格電気出力118万キロワット、定格熱出力342万3千キロワット)は定格熱出力一定運転中のところ、8月4日5時6分に「2次系サンプピット※注意」警報が発信しました。

直ちに、当社運転員がタービン建屋内の現場を確認したところ、復水器に海水を送るための循環水管(A、B2系統)のうち、A-循環水管のベント弁付近からの海水漏れを発見しました。

当該箇所を点検するため、5時37分より循環水ポンプ※の停止操作を開始し、7時40分に停止しました。

その後、出力降下の操作を行い、10時30分時点で発電機出力が約65%に降下しました。今後、漏えい箇所の調査を行う予定です。

なお、この事象による環境への放射能の影響はありません。

※ 2次系サンプピット：2次系排水の貯水槽。

※ 循環水ポンプ：タービンを回した蒸気を復水器で冷やして水に戻すために、復水器に海水を送りこむポンプ

[2021年8月4日お知らせ済み]

その後、A-循環水管のベント弁付近の点検を行ったところ、海水は、当該弁と循環水管の接続配管(炭素鋼：直径約17cm、長さ約13cm、厚さ約7mm)から漏えいしていることを確認しました。

海水漏えい箇所の外観点検を行った結果、直径約4cmの円形状の貫通孔を確認しました。

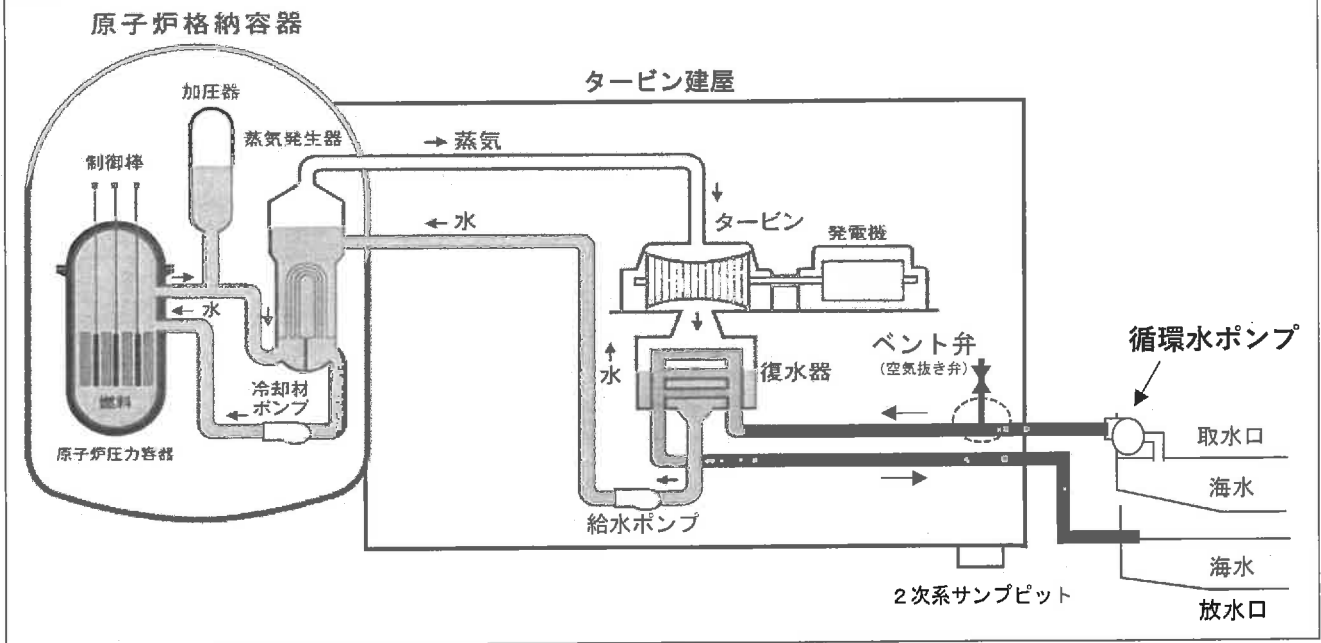
現在、貫通孔が発生した原因等について、調査を行っています。

なお、本事象については、実用炉規則134条第2号に該当するとして、本日、原子力規制委員会に報告しました。

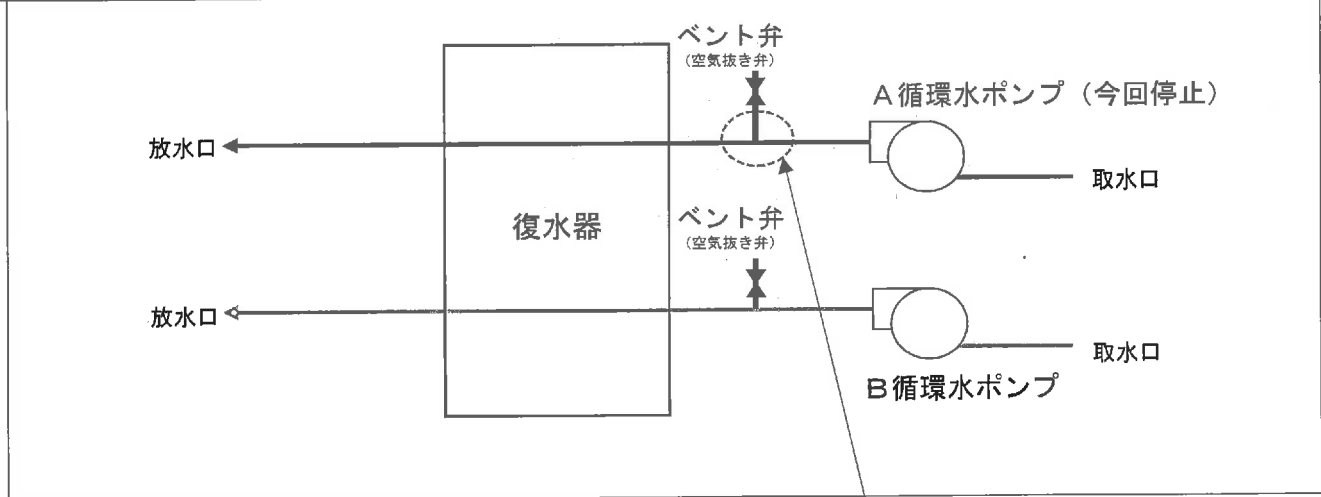
以上

A循環水管ベント弁付近からの海水漏れ (調査状況)

系統概略図



復水器系統概略図



漏えい箇所(貫通孔)写真



ベント管概略図

